

長野テクトロン株式会社 (業種：製造業)

URL : <https://www.nagateku.co.jp/>



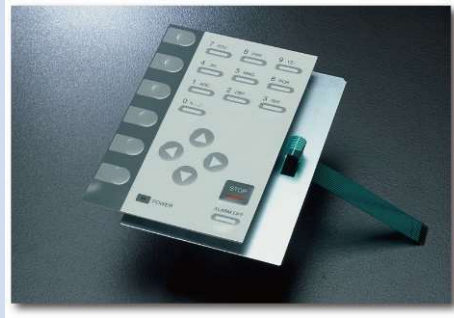
企業概要		事業概要	企業理念
資本金	50,000 千円	メンブレンスイッチ、カスタムキーボード、タッチパネルPC、液晶モジュール等入力表示装置のカスタム設計製造業	”これから”をもっと快適に 私たちは製品やサービスを通じて社会をより快適にする事で”いま”に貢献し”これから”をもっと快適にする事で社会と共に成長してまいります。
従業員数	90 名		
代表者	柳澤 由英		



取組概要

【取組テーマ】
AIサーバによる営業案件管理システムの構築

【対象の領域】
当社の主力はメンブレンスイッチ(右写真)やカスタムキーボード。材料や仕様構造が価格や納期に大きく影響されるため、類似した案件をAIに学習させる事で、最適な価格や納期情報を提案に反映させていきたい。

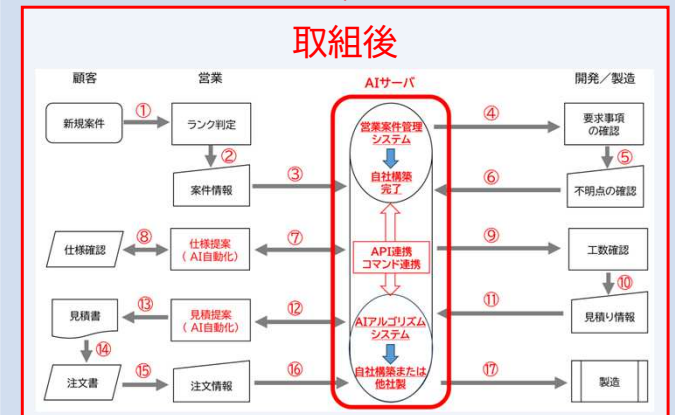
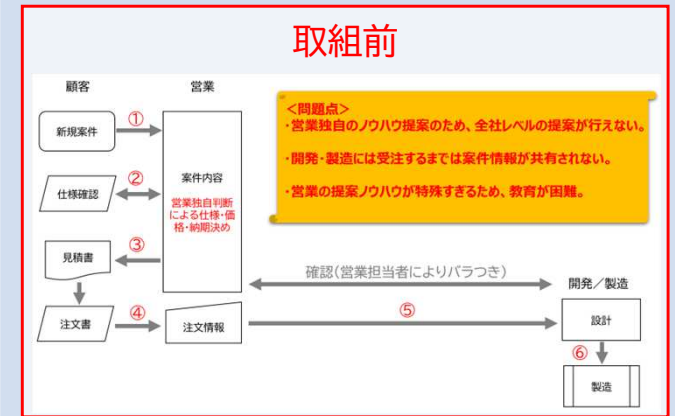


【取組内容】
現在、新規受注案件に関しては営業部が独自で仕様、価格、納期を提案し、受注後に開発部や製造部にレビューする体制を取っている。そのため営業部から顧客へは提案スピードが迅速に行える反面、開発仕様や製造納期や製造コストなど、全社のリアルタイムな情報やノウハウ、リソースはお客様への提案に反映できていない。

- 【取組内容のポイント】
- 新規受注案件をリアルタイムに社内(営業部、開発部、製造部)レビューできるシステム構築を行う。
 - 各部署のノウハウやリソースをリアルタイム照合させ、最適・スピーディーに提案できる体制を目指す。
 - 各部署の照合データとお客様への提案をAIによって学習させ、精度と質の高い提案を目指す。

- 【DX推進計画】
1. 経営上ありたい姿(理想)と現状のずれ
新規案件に関して全社リソースを使用して提案すべきであるが、営業単独提案となってしまう。
 2. 解決策
リアルタイムに全社リソースを照合して客先提案が可能な案件管理システムを構築する。
 3. 成果
営業の勘による提案から、開発や製造リソースを利用した最適な提案ができるようになった。

DX推進による成果(または、目指す姿)



わが社のDXのポイント（ご自由に）

【DXを進める上での苦労や行った工夫】

1. 現時点の実態把握とデータリソースの洗い出し
現時点における実態把握と今後利用可能なデータリソースの洗い出しを行った。基本的な所から取り組む必要があり、情報セキュリティ強化（情報セキュリティ基本方針の策定、セキュリティハンドブックの作成と社内周知、SECURITY ACTION(二つ星)宣言）を進めると同時に、デジタイゼーションを推進させ社内のデータリソースの棚卸しを行った。
2. DX推進計画書の策定
As-Is/To-Be(現在の姿となりたい姿)分析を行い、事業計画と連動させたDX推進計画書の策定を行った。DX推進計画書には、具体的な行動や、実施項目、推進体制、スケジュール、指標、環境整備の具体的方策などを明確にした。またその際、自社の事業計画書とリンクさせ、事業計画の遂行のためには、DX計画の推進が不可欠という立てつけを行った。
3. 推進体制の構築
ITC長野様の専門家を外部招聘し、社長(CDO)直下にDXプロジェクトチームを設置して体制の構築を行った。
4. 各種認定制度取得による社内意識醸成
DX推進計画書を元に、各種の認定制度(DX認定取得、DXセレクションへのエントリー)を行う事により、自社の取り組みに自信が持て、社員の意識向上にもつながった。ITC長野様の伴走支援を利用させて頂いたお蔭で、一連のDXの進め方のポイントが理解できた。

【DXを進めたことによる具体的な変化】

1. 社内意識の変化
DX推進計画および推進体制を構築する事により、社内のDXに対する取り組みの基本姿勢や心構えができた。
2. 具体的な取り組みによる変化
DX推進計画および社内体制を構築した事で、各部署ごとにDX推進計画に基づいた課題やテーマを抽出し取り組む習慣ができた。
3. 取り組みによる結果
営業効率改善や製造効率改善による付加価値の向上が達成できた。またDX認定やはばたく中小企業・小規模事業者300社のDX部門にも選定を頂き、会社全体としての自信にもつながった。

【DXへの取組み時を振り返って】

1. 良かった点
代表取締役が先頭に立ちDX推進に取り組んだ事により、諦めずに組織として最後まで計画を遂行する事ができた。
2. 改善すべきだった点
SECURITY ACTION、DX認定、DXセレクションなどの認定制度ありきで形から入ってしまった所もあり、進め方に関する課題が残った。

【これからDXに取り組もうとする企業へのメッセージ】

当社はまずはデジタイゼーション(デジタル化)から徹底的に取り組ましました。目の前のちょっとした課題から取り組んでいく事が重要と感じております。